

HIGASHI OSAKA MIDORI R.C



SERVE TO CHANGE LIVES

CLUB WEEKLY

国際ロータリー 第2660地区
東大阪みどりロータリークラブ

創 立 1998年9月24日
会 長 北 井 孝 彦
幹 事 表 孝 典
会報委員長 井 上 善 博

2022-5-12 (第1013回)

今週のプログラム

≪5月12日(木)例会 KKRホテル5階「瑞宝」≫

◎卓 話 「自 己 紹 介」

米山奨学生 羅 婕今さん

♪本日の歌 「君が代」「四つのテスト」

来週の予定

≪5月19日(木)例会は休会です。≫

≪5月26日(木)例会 KKRホテル5階「瑞宝」≫

◎卓 話 「未 定」

政岡政広君

先週の出席者

≪4月21日(木)例会≫

会員数17名 出席者5名(45.5%)

*12月19日(木)例会修正出席率 76.9%

会員数17名 例会出席者7名/メークアップ3名

幹事報告

幹事 表 孝典君

◎本日例会後、定例理事会を行います。

◎次週の例会(5/19)は公休日です。

◎次回の例会(5/26)前に行う予定でした新旧クラブ協議会は、大谷ガバナー補佐と伴井ガバナー補佐エレクトとの懇談会に変更となりました。会長・幹事、田村会長エレクト、井上副幹事のみ出席します。

会長の時間

会長 北井孝彦君

皆さんこんばんは。

本日もリアルで例会が開催されること本当にうれしく思います。感謝です。

さて、先日4月9日に次年度2022-2023年度のための地区研修・協議会が開催されました。そこで次年度R I ジェニファー・ジョーンズ会長のテーマと強調事項また、2660地区宮里唯子ガバナーの方針の紹介がありました。奇しくもロータリー初めての女性リーダーの誕生です。詳しくは、次年度田村会長エレクトからお話があると思います。

本日はロータリーの友4月号から次の推奨記事のご紹介を致します。

P.14~19【アンケート：女性会員に聞きました】

1989年にロータリークラブへの女性の入会が認められてから33年。全世界の女性会員の比率は23%を越えますが、日本では7%、当地区でも8%強です。女性ロータリアンから見たロータリーはどのように映っているのでしょうか。全国の女性ロータリアン1155人へのアンケート結果が紹介されています。

例会場：KKRホテル大阪 Tel：06-6941-1122

例会日時：毎週木曜日 午後6時30分

事務所：〒631-0001 奈良市北登美ヶ丘3-11-30

Tel. 0742-55-4869 Fax. 0742-51-1067

E-mail midorirc1126@gmail.com



ロータリーに対するイメージ、満足度は良好ですが、性別ではなく「個」「自然体」が重要である、トンチンカンな気遣いは無用、男女の区別なく接して欲しい等男性会員は心すべきコメントが多々あります。

P. 20～23 【どうやって決まる？ロータリーのルール】

国際ロータリー（RI）の活動はRI定款及びRI細則に従い運営され、ロータリークラブ（RC）の活動は標準RC定款及びRC細則に従い運営されています。RIの組織規程文書すなわちRI定款、細則、標準RC定款の条項の改正案を審議するのが規定審議会

（COL:The Council on Legislation）です。

3年に一度シカゴのRI本部で開催され、各地区1名の代表議員が世界524地区より集まり、各地区より提出された改正案（制定案と呼ばれます）が5日間にわたり審議されます。今年は3年に1度の開催年で4月10日から開催され、当地区からは立野パストガバナーが地区代表議員として参加されます。ロータリーの規定がどのような手順でどのように決まってゆくのかイラストも交えて分かり易く解説されています。

是非ご一読ください。

卓話抄録

「聞いて楽しむ日本の名作」

辻 茂君

『二十四の瞳』

・作品解説

瀬戸内の寒村での、女性教師と12人の子供達のふれあいを描き、戦後の日本人の心をつかんだ「二十四の瞳」は、昭和27年(1952年)にキリスト教雑誌「ニュー・エイジ」の2月号から11月号に発表された。

『二十四の瞳』は、昭和3年から昭和21年までの物語で、約20年間にわたる先生と生徒たちの人生が描かれている。それは、民主国家の日本が徐々に軍国主義に包まれ、ついには世界戦争で国を滅ぼしかけた激動の時代でもあった。壺井栄は、自分の

分身である大石先生を、生徒たちの母のような存在として描き、出征していく教え子たちには、生きて帰ってきなさいと語りかける。

作品は、雑誌に発表された直後の12月に、光文社から単行本として刊行されたが、このときに加筆と修正が加えられ、反戦的な要素がはっきりと打ち出されることになった。また、物語の舞台は、作品中では瀬戸内海の寒村とだけされているが、栄は故郷の小豆島をモデルに村の生活を描いている。昭和29年に公開された、木下恵介監督による映画『二十四の瞳』でも、小豆島がロケ地として選ばれ、栄自身も撮影現場に出向いている。

・作家紹介

明治33年、醤油樽職人の父岩井藤吉、母アサの五女として香川県小豆郡坂手村（現在の小豆島村）に生まれる。幼い頃に蔵元が傾き、家計を助けながら坂手小学校、内海高等小学校を卒業する。郵便局や村役場に勤めながら文学書を読み続けた栄は、大正14年（1925年）に同郷出身の詩人壺井繁治をたよって上京、繁治と結婚する。

東京での栄は、政治運動に関わっていた繁治と長く行動をともにし、知り合った林芙美子や宮本百合子らに影響されながら小説を書き始める。そして、昭和10年（1935年）に処女作『月給日』を発表した栄は、昭和13年に「文芸」に掲載された『大根の葉』で評価を得て文壇に登場。さらに昭和15年に『暦』で第4回新潮社文芸賞を受け、本格的に作家として歩み出すことになった。栄は戦後も作品を書き続け、昭和26年に戦争をテーマにした『母のない子と子のない母と』を発表。芸術選奨文部大臣賞を受賞すると、昭和27年に発表した『二十四の瞳』が一般読者から大いに支持され、壺井栄の名は日本中に知られることになった。栄は昭和42年に内海町の名誉町民に推挙されている。

二コ二コ箱の報告

例会担当委員会

(4/21) 合計 10,000円 今年度累計 225,000円

あいみ
相視て笑い、心に逆ふこと莫し「莫逆の交」を目指そう!!

2021～2022年度 東大阪みどりRCのテーマ



SERVE TO CHANGE LIVES

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度 国際ロータリーのテーマ